

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	タートル体力運動能力開発ラボ TURTLE KIDS SENDAI		
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11世帯	(回答者数) 9世帯
○従業者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	オリジナルの運動用具を用いて運動遊びを通して、感覚統合トレーニングや、利用児ひとりひとりの発達段階に合った支援を行っている。苦手なことを克服し「できた」の喜びをたくさん経験していくことで達成感ややる気につなげられるような活動内容。	身体全体を使った粗大運動は毎日取り入れ、手や指先などの筋肉内を使う微細運動も日常生活動作等を通して毎回の活動の内容に取り入れています。普段使わないような動きを意識して取り入れ、可動域を広げたり、元気な身体を作る体力作りを意識して行っている。	系列事業で体操指導30年の実績をもとに体操指導員による運動遊びを通して楽しく取り組める活動と、理学療法士・作業療法士による専門的分野から個々の身体の成長に合ったプログラムに沿って支援を行っていく。
2	長期休みは、社会性や協調性を身につけることを目的に様々な公共施設へでかけ、見聞し、視野を広げられるような活動を取り入れている。	子どもたちの個性を發揮できたり、苦手なところを克服できる機会を持てることを視野にいれ、立案している。	学年に応じて、学習を伴う施設の見学や、一人一人の特性に応じた活動内容を計画していく。
3	利用児ひとりひとりに寄り添い、「できた」ことをほめたり、できなくても「がんばったこと」の過程を認め、また、思うようにいかずに戸惑っているときはゆっくりと丁寧な関わりで心かけ一緒に繰り返し行うことで苦手なことを克服していけるよう努めている。	ひとりひとりの個性が異なるので、職員間で常に意見交換を行ったり、小さな成長を認め「できた」ことの成功体験をたくさん積む。つまづいたときは、支援員と一緒に焦らずゆっくりと丁寧に関わり、つまづきの原因を追求し反復取り組んでいく。	様々な研修に参加し、職員一人一人の知識を深め子どもたちによりよい支援を行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士、きょうだい向けの交流の機会が持てなかった。	・日程の調整が難しかった。 ・行事と行事の日程が近すぎて予定を立てにくかった。	・他のメイン行事を考慮して、年間行事予定にあらかじめ入れておく。
2	・緊急時の避難訓練や研修を行っているが、保護者向けへ報告ができないことがあった。	・SNSアプリを使用して報告をしていたが、保護者が閲覧し周知しているかが不明瞭。 ・一人一人の活動記録の中で報告を行っている。	・年度初めの保護者会でHUGの使い方について周知し、訓練の様子等を報告すること伝えていく。
3			